

評価の概要

平成 22 年度新規特別研究課題

(1) ひずみ集中帯の地殻変動特性に関する研究

本研究は是非進められたい。ただし、周辺に GPS 連続観測点がいくつか設置されていることを考慮し、GPS 繰り返し観測においては、連続観測点との関連も検討しつつ進められたい。また、計画では GPS 繰り返し観測が 2 週間程度の観測期間となっているが、観測中に緩急の動きが想定されることから、より長期の観測が設定できないかを検討されたい。

(2) 世界測地系における新手法による国内位置基準の監視に関する研究 (※)

VLBI の測定システムが世界的に変更されることに対応した検討を行うことは必要であるし、また GPS 連続観測システムが有効な日本では、VLBI と GPS の統合的な解析についての検討も必要であるという背景を考慮し、本研究は是非進められたい。ただし、課題名に「新手法」とあり、この研究で新しい手法を開発するという誤解を与えるおそれがあるが、むしろこの手法への国内での対応を考えていくという趣旨であることから、それが明確になるよう、課題名を今一度検討されたい。

また、VLBI はプレートの運動を見いだす上で重要な役割を果たしているが、国民にあまり知られていないこともあり、研究成果を公表する方向で検討されたい。

(3) GPS による地殻変動監視の信頼性向上のための大気擾乱の影響評価に関する研究

最近、地殻変動観測の精度向上が、波長の短いような微細な変動に対しても求められてきているという背景を考慮し、本研究は是非進められたい。ただし、将来どういう形で実用化していくのか見通しをもって進めることが重要である。大気擾乱の影響を、常時日本列島全ての GPS にくまなくかぶせるのは難しいので、例えば、あらかじめモデルを作っておき、地震が起きた場合、その地域に関してモデルを適用して精度の良い地殻変動量図がすぐに出せるようにしておくなど、応用面を含めて検討しつつ研究を進められたい。

(4) 地震災害緊急対応のための地理的特性から想定した被害情報の提供に関する研究

地震発生後 1 時間程度のうちに緊急に防災に役立つデータを提示するという本研究の目的は重要であり、是非進められたい。ただし、このデータを提示する上で、災害への対応を判断するのに相応しいデータを作ることが必要になるので、国土地理院

として、災害に対応した主題図の作成方法など、基礎的な研究を行うことを考えるべきである。水害のハザードマップは、技術的にはほぼ確立していると考えられるが、地震災害に対応したハザードマップは、がけ崩れのおそれがある地域が必ずしも明らかになっていない部分もあることなどを考慮すると、そのような基礎的な研究を進める必要がある。

全体として、提案された4つの研究は必要不可欠な研究課題であるので、上述の内容を念頭に置きつつ、積極的に進められたい。

(国土地理院注)

※(2)については、今回の事前評価を踏まえ、課題名を「世界測地系における国内位置基準の監視の高度化に関する研究」に変更する。